

整理番号
13

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	除染対策事業				担当課	防災危機管理課
業務名	-				担当係	放射能対策係
基本目標	1	安全・安心できれいなまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	2	放射線対策			事業区分	一部委託
主な取組	1	情報提供・相談等の推進			-	-
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	11	2	2	除染対策事業費	

目的と方針【PLAN】
放射線への不安がない、安全に安心して暮らせるまちづくりに向け、情報提供や相談、農産物の風評払拭に向けた取組など、放射線対策を継続して実施します。

事業概要【PLAN】
仮置場を適正に管理し、原状回復工事を行い、市民の放射線に対する不安を解消します。

対象【PLAN】	市民	意図【PLAN】	仮置場の現状回復工事を行い地権者へ返地し、市民の放射線に対する不安を解消する。
-----------------	----	-----------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
伊達市放射能相談センターの運営。放射線の測定及び相談対応

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	562,995	364,370	112,332	111,584		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	0	0	0	0		
事業費合計		千円	562,995	364,370	112,332	111,584		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
仮置場の維持管理、原状回復工事の件数	件	実績値が目標値以上となること	目標値	5	1	-	-	-
			実績値	4	0			
			達成率	80.0%	0			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	放射能相談センターの設置継続には、放射能に対する市民感情の現状把握や業務内容等の精査が必要である。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	放射能相談センターの設置により、放射能に対して不安を抱く市民からの相談窓口として機能している。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	放射能物質汚染対処特措法・国の除染関係ガイドラインに基づき事業を行った。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	改善	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	今年度予定していた原状回復工事については、地権者との協議が難航したことにより、完了できなかった。一部の市民の放射能に対する不安は根強く、放射線に対する不安が払拭されていない現状を踏まえた事業継続の検討が必要である。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
14

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	小中学校における放射線教育の実施			担当課	学校教育課
業務名	-			担当係	指導係
基本目標	1	安全・安心できれいなまち		計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	2	放射線対策		事業区分	直営
主な取組	1	情報提供・相談等の推進		-	-
予算科目	会計	款	項	大事業	
				予算計上なし	

目的と方針【PLAN】	放射線への不安がない、安全に安心して暮らせるまちづくりに向け、情報提供や相談、農産物の風評払拭に向けた取組など、放射線対策を継続して実施します。
-------------	--

事業概要【PLAN】	放射線について正しい知識を身に付け、伊達市の現状について、説明できる力を育みます。
------------	---

対象【PLAN】	小学校1年生～中学校3年生	意図【PLAN】	発達段階に応じた放射線に関する正しい知識を身につけ、安心して生活できるようにする。また、風評払拭に向け、中学校3年生までに伊達市の現状を説明できるようにする。
----------	---------------	----------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	各学年とも「学級活動」の時間に、年間3単位時間の放射線教育の時間を設定し、指導する。あわせて、令和6年度は小学校6年生の「総合的な学習の時間」において5単位時間の放射線教育の時間を設定し、指導する。
----------------------	---

事業費【D0】	年度 単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	
事業費合計	千円	0	0	0	0		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
小中学校において放射線教育に位置付ける授業時数	時間	実績値が目標値以上となること	目標値	各学年3時間加えて小学校高学年で10時間	各学年3時間加えて小学校高学年で5時間	各学年3時間	各学年3時間	各学年3時間
			実績値	各学年3時間加えて小学校高学年で10時間	各学年3時間加えて小学校6年で5時間			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	放射線の影響について敏感に反応する保護者、児童生徒は減少している。放射線に関する正しい知識をもとに、安全に判断し行動する力、風評払しょくに向けて科学的根拠をもとに説明できる力を身に着けることが必要である。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	東日本大震災に伴う原子力発電所事故が発生するまでは、放射線について学習する機会は少なかった。小学校1年生～中学校3年生まで定期的に放射線について学習することで、科学的根拠をもとに理解する機会となっている。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	現在、事業費はついていない。今後は、放射線について知る学習だけでなく、科学的根拠をもとに判断し行動するための学習、学んだことをもとに説明する学習として、縮小していくことが妥当である

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	縮小	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	小学校1年生～中学校3年生まで定期的に放射線について学習することで、科学的根拠をもとに理解することができている。今後は「知る」から、「考えて行動する力」「科学的根拠をもとに説明できる力」の育成が必要と考え、内容を改善し、放射線を扱う時間としては縮小することが妥当である。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
16

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	自家用農産物等安全推進事業				担当課	農政課
業務名	—				担当係	農業振興係
基本目標	1	安全・安心できれいなまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	2	放射線対策			事業区分	一部委託
主な取組	2	検査・測定等の実施			—	—
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	11	2	4	自家用農産物等安全推進事業	

目的と方針【PLAN】
放射線への不安がない、安全に安心して暮らせるまちづくりに向け、情報提供や相談、農産物の風評払拭に向けた取組など、放射線対策を継続して実施します。

事業概要【PLAN】
原発事故に伴う農産物の安全性の確認と不安解消のため、放射性物質分析器を活用した検査体制を維持します。

対象【PLAN】	市内の農作物を消費する市民および生産者	意図【PLAN】	市内の農作物を安心して食べてもらう
-----------------	---------------------	-----------------	-------------------

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
身近に農産物等の放射性物質検査が受けられる環境を整備する。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	10,879	12,540	4,315	6,329		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	0	0	0	0		
	事業費合計	千円	10,879	12,540	4,315	6,329		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
検査件数	件	実績値が目標値以下となること	目標値	280	280	200	200	130
			実績値	300	337			
			達成率	93.3%	83.1%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	以前より検査の住民ニーズ、社会的需要は少なくなりつつある。ただ、いまだ出荷制限のかかっている農作物もあることから、事務事業の優先度が高い。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	市民の農産物の安全・安心への不安を解消並びに風評被害払拭のためには、放射性物質検査を継続する必要がある。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	費用を抑えるため、R6年度より検査会場を1か所に統合するよう調整し、コストの削減に努めた。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	放射性物質の検査については、国・県としての方針が求められるものであり、市だけで判断できるものではない。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
18

事務事業評価表
令和6年度実施事業

部長	課長	係長	担当者

事業名	農産物魅力発信事業				担当課	商工観光課
業務名	-				担当係	物産振興係
基本目標	1	安全・安心できれいなまち			計画期間	令和6年度～令和8年度
施策項目	2	放射線対策			事業区分	一部委託
主な取組	2	検査・測定等の実施			-	-
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	11	3	6	風評被害対策費	

目的と方針【PLAN】
放射線への不安がない、安全に安心して暮らせるまちづくりに向け、情報提供や相談、農産物の風評払拭に向けた取組など、放射線対策を継続して実施します。

事業概要【PLAN】
原発事故による風評被害を払拭し、市の基幹産業である農業の振興や発展のため、市農産物を広くPRします。

対象【PLAN】	首都圏など県外の消費者	意図【PLAN】	首都圏など県外の消費者が、伊達市産の農産物を好んで購入し、原発事故の風評被害を払しょくし、伊達市の農業が継続的に発展していく。また、伊達農産物のブランド力が向上する。
-----------------	-------------	-----------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】
ターゲットを明確化し、そのターゲットに届くPR方法で伊達市産農産物のおいしさと安全性を届けていく。また、様々な媒体やPRできる販売店等の情報を集め、効果的なPRに努める。

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円	9,736	9,999	9,608	10,000		
	都道府県支出金	千円	5,000	6,833	7,366	3,200		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	1,981	1,200	0	0		
	一般財源	千円	121,250	13,000	11,851	13,355		
	事業費合計	千円	28,867	31,032	28,825	26,555		

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
PR回数	回	実績値が目標値以上となること	目標値	18	18	19	19	20
			実績値	19	27			
			達成率	100.0%	100.0%			

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズについてどうか 社会的需要についてどうか 事務事業の優先度については高いものであるか 	未だに原発事故の不評被害が残っている現状で、農産物の価格が他の産地より低い状況で、農業の生産基盤を守るための事業として優先度は高い。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか 市民満足度についてはどうか 社会貢献度についてはどうか 	対面で話の出来るPR販売や、広く広報できるメディアを活用したPRなど、様々なPRが必要なことから有効だと考えている。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用を抑える工夫は行ったか 時間を削減する工夫は行ったか 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか 	・大型商業施設のPR販売では、職員による直営で行うことで経費を抑えてPRを行った。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設や大規模イベント、飲食店など様々なPR活動を行うことで、本市の農産物のPRを図った。 実際に販売面の多くを担うのはJAであることから市の役割や、すべての生産者の販路拡大につながるプロモーションなど課題が残る。
--------	----	-------------------------	---